

## ■ 気づき、そして、踏み出す勇気的一步

この映画を通して、ひかりの成長の姿を追ってみましょう。

絵本の読み聞かせがうまくできないひかり。子どものころから人付き合いが苦手だと告白するひかりがいました。

でも、そんなひかりですが、いつも一人で図書館の窓辺にたたずむタオロンには気づいていました。恵と同じように、気に掛けていたのです。

そして、絵本を読んで涙を流したタオロンに勇気を出して声を掛けました。この時同じようにタオロンの涙に気づき、「私たちに関係ないし、興味もないしね」と出て行ってしまった3人の女の子の言葉に、逆にハッと気づかされたのでした。小学生のころ、傍観者になってしまった自分と決別したいという自分の気持ちに促されたかのように、タオロンに声をかけました。

「ねえ、その絵本…」

でも、まだ、図書館を飛び出したタオロンを追いかけていく勇気はありません。

しかし、小学校の同級生だった、はまだかいとの絵本『ユーナの樹とトモダチ』が、ひかりの心に秘めら

れていた強い思いを引き出しました。

置き忘れたかばんを取りにきたタオロンを追って、今度は駆け出していきます。そして、傘を隠されて絶望の中、雨の中に飛び出したタオロンを追っていったのでした。

ひかりは、人の痛みに気づける子どもでした。しかし、小学生の時にいじめから目を背けてしまった苦い思いが長い間、自分自身を苦しめてきました。

しかし、絵本と、そして、タオロンとの出会いが、人の痛みを思い、一步を踏み出す勇気の大切さを教えてくれました。このことは、恵が指摘するように、ひかり自身が願ってきたことでもありました。

タオロンもまた、絵本とひかりとの出会いによって変わりました。

絵本の中のリンクの勇気ある行為が、同じように言葉をうまく話せず孤立していたタオロンの気持ちを奮い立たせました。

初めて友達になってくれたひかりに「タオロンくんも自分からみんなに話し掛けてみない？」と背中を押され、タオロンも勇気ある一步を踏み出したのです。

あなたもぜひ勇気ある一步を踏み出してください。



「実は私にも小学校のころ、すてきな絵を描く友達がいきました。でも、その友達が困っているとき、巻き込まれるのが怖くて、見て見ぬふりをしてしまったのです。自分のことしか考えず、友達の気持ちを少しも分かるうとしなかったのです。でも、それがどんなに悲しいことなのか、助けるために一步を踏み出すことがどんなに大切なことなのか、はまださんの絵本で気づかされました」

ひかり 手紙の中で

映画のシーン

「同封した絵手紙は、中国から転入してきた6年生のタオロンくんが書いたものです。学校では一人ぼっちでさみしい思いをしていましたが、はまださんの絵本で友達をつくる勇気ができたようです」

## ■ 人権啓発映画『虹のきずな』を使った学習プログラム〈例〉

### テーマ

傍観者になるということ、無関心であるということ

### ねらい

映画や話し合いを通して、差別に対して『傍観者になること』や『無関心であること』の意味について考える。映画を振り返り、日常の自分の体験を話し合う。差別をなくしていくために、私たちはどうすればいいのかを考える。

### 映画の学習のポイント（「指導者用手引」より）

- 人の「痛み」を感じるチカラ、ありますか？ → 人の痛みに気づく
- なぜ、相手のことを見ようとししないの？ → 違いを認めよう
- 人の気持ちを想像して、お互いの思いを伝え合おう → 想像力を発揮する
- 悲しみを喜びに変えるチカラは、一人一人の心の中にある → 心で受け止める
- それって、助けてあげないのと同じじゃないの？ → 傍観者からの脱皮
- 友達の友達は友達？ それとも他人？ → 信じる心の強さ
- 気づき、そして、踏み出す勇気の一歩 → 勇気ある一歩を

職場や地域、あるいは学校の状況に適した学習プログラムを組むことが大切です。

右の〈学習プログラム例〉は、この映画の学習のポイントの一つ、『それって、助けてあげないのと同じじゃないの？～傍観者からの脱皮』に焦点を当てて作ってみたものです。例えば、学校の授業など45分程度の研修であれば、映画の中の絵本のパート『ユーナの樹とトモダチ』（16分）の部分だけを活用して、話し合ってみるのもいいかもしれません。どうぞ、自由な発想で人権啓発映画をご活用ください。

私たちは、人の痛みに気付くことも、人の気持ちを想像する力も、人を信じる心も、そして、勇気ある一歩を踏み出すことも同様に大切なことと考えています。こうした大切なことを意識して、自分自身の日常生活を一度振り返ってみることも大切ではないでしょうか。そんなこともぜひ、皆さんで話し合ってみてください。

学習の流れ	時間 (90分)	方法	教材
オリエンテーション	10分	① 4～6人のグループをつくり、自己紹介を行う。 ② ねらいと学習の流れを確認し、司会・記録・発表の役割分担を行う。 ③ 積極的に参加すること、他人の意見を傾聴し、尊重すること、学習の中で出た意見はこの場のみに行うこと（守秘義務）を確認する。	記録用紙 筆記具
人権啓発映画 『虹のきずな』の上映	30分	映画視聴	人権啓発映画 『虹のきずな』DVD
話し合い	30分	① 映画を見ての感想や映画内容について意見交換する。例えば、映画の中で気に入った言葉や態度があったか。 また、『学習のポイント』や下記のような特定のテーマで話し合う。 <テーマ例> ・主人公ひかりの変化（成長） ・ウサねーちゃんの変化（成長） ② 傍観者、無関心について、日常生活での自分を振り返り体験を語り合う。	ワークシート ①映画の感想 ・自由意見 ・ひかりの成長 ・ウサねーちゃんの成長 ・映画の中で気になった言葉や態度 ②日常の自分を振り返って
グループ発表	5分×G	グループ発表。それぞれ5分程度で発表する。講師はキーワードをホワイトボードに書き込んでいく。	ホワイトボード
講師からのまとめ	10分	<例> 情報不足や誤った情報、あるいはそれに基づく不正確な知識や思い込みは、同和問題やHIV感染者・ハンセン病患者等に対する差別に限らず、東日本大震災後の放射能汚染を巡るいじめや宿泊拒否など、さまざまな人権問題を引き起こす原因の一つと言えます。そのことを踏まえて、私たちは、この勉強会で、『傍観者』について考えました。さまざまな問題を自分の問題として考えること、しっかりとコミュニケーションを取ること、お互いを一人の人として認め合うことの大切さを改めて考えられたのではないかと思います。少しずつでも具体的な行動として、実践していきましょう。	指導者用手引

## 人権文化の新たな潮流を

北九州市人権啓発映画制作に関する検討会議委員長  
(北九州市立大学地域創生学群教授)

中島俊介

この映画は、地域に人権文化を醸成したいという願いの中から生まれました。「人権文化」という言葉は「人権教育のための国連10年」(1995～2004)を機に広がった言葉です。その趣旨は一人一人が自発的な意志に基づいて、人間を尊重し、生命の尊厳を守り抜いていく生き方を、地域を挙げて文化的な気風として根付かせ、伝承させていくことを目指すものです。

東日本大震災の津波で、5メートル以下の堤防しかない釜石市では、かえって堤防の高さに依存することなく迅速に行動し、ほとんどの小中学生が助かりました。古くから三陸に伝わる「津波てんでんこ(てんでばらばらに逃げろ)」の防災教育が徹底されていたからだといわれます。この言葉によって、「大切なものを守るには自立的な行動を取ることが大事であること」「何かに依存しては危険であること」を伝承してきたのではないのでしょうか。

「人権文化を築くための運動」は緒に就いたばかりです。次の世代につなぎ、運動としてずっと継続していかねばなりません。文化とは固定的なものではなく「人」に体得、体現されて初めて現実に脈動してゆくものです。そのためには、運動を深化し拡大する次の担い手(子どもたち)を育てる必要があります。今回の啓発映画はその点でも十分活用できる内容となっています。

私たちは、地域の歴史と伝承を身体に刻んできたユーナじいさまの知恵と態度を学び、リンクやひかりやタオロンの勇気ある行動を学びたいと思います。この小さな作品がきっかけとなって、「人権文化の花を大きく咲かすんだという気風」が市民間に強く脈打つ新たな潮流を生み出す一歩となれば幸いです。



北九州市人権推進センター (人権文化推進課)

TEL (093) 562 - 5010

〒803-0814 北九州市小倉北区大手町 11-4 大手町ビル (ムーブ) 8階

リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へ  
リサイクルできます。

No.1210005B 号